令和８年１月 17 日

世田谷区立代沢小学校
校　長　原田　哲　様

世田谷区立代沢小学校
学校関係者評価委員長
須　貝　　信

令和７年度　学校関係者評価委員会報告

本年度は、新たな校長先生を迎えての一年となりました。校長先生が変わるということは、学校運営が大きく変わっても不思議ではありませんが、学校運営の仕組み上、運営方針は前校長が作っており、それを４月に変更するということは現実的では無く、その方針に沿った運営となった一年でした。

校長先生からは次年度以降にやりたいことを伺う機会もあり、２年目は現状とてもうまくいっている代沢小学校の運営を活かしつつ、変えていきたいところもあるということでした。代沢小学校の運営は、児童、保護者、地域の高い評価からも分かるとおり、その視点では、大きく変更しなければいけないということを切り出すことは出来ませんが、それは教職員への大きな負担の上で成り立っているということもあり、その部分との折り合いをどう付けていくかという視点での改革も必要であると感じました。改革を実行する上でも、是非今年度の報告を活かして次年度の運営方針を立案していただければと思います。

＜回答率：地域以外はオンライン回答のため対象人数に対する回答数で算出＞

保護者　４５４人　７４％（３３４回答）
児童　　１９７人　８８％（１７３回答）
地域　　５５人　５６％（　３１回答）

Ⅰ　重点目標への取り組み

代沢小学校は、「自分で、進んで、負けないで」を教育目標とし、よく考える子、思いやりのある子、元気な子を育てることに、継続的に力を注いでいる。「社会とつながり未来を創る子供の育成」を基本方針とし、教職員、保護者、地域が一体となった「チーム代沢」で、「みんなの子どもをみんなで育てる、みんなの学校をみんなで創る」ことに取り組んでいる。

本年度、学校独自項目としてまとまった設問が無い為、各分野の回答、教職員、保護者からの自由記述回答をもとに考察する。

重点目標　１　主体的な学び

学力の基本である学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題をもち、主体的に解決しようとする能力や態度を育てることを目指している。

生活科・社会科を中心とした校内研究の充実、地域の文化、歴史、人、自然などの身近な教材活用、子どもが主体性を発揮できる探究的、協働的な学び合いの授業の充実、個人を大切にした指導、自分で考え、伝えられる子の育成、ICT 機器の学校及び家庭での有効活用、地域の人材、施設の活用、読書活動の推進、環境教育の推進、「代沢小学習の基本」を基準とした学習指導、教育環境の整備を行うことを目指している。

＜成果＞

- 高学年（5,6 年）児童の 91%が、先生は、授業のなかで、課題（めあて）について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を取っているとしており、93%が、授業では、話し合ったり、発表しあったりする機会があるとしている。
- 保護者（1～6 年）の 81%が、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っているとしており、86%が、子どもが考えたことを話し合ったり発表しあったりする機会があると回答している。
- 地域の 74%が授業で学習することについて、自分の考えをもてるように、78%が自分の考えを話したり、書いたりして伝えることができるように学習を進めていると回答している。分からないという回答以外は、全て肯定的な回答であった。

教員の自己評価においても、主体的に学ぶこと、学びあうことを大切にして授業を行っている様子がみられる。

- 地域の人や施設を教育活動に活かしているとする保護者が 72%、地域が 87%であった。

保護者の肯定的な回答はやや低いが、分からないという回答が 17%であり、成果が認識されていないと思われる。

＜課題＞

- 高学年（5,6 年）児童の 81%が、授業の自分自身で良く考え解決しようとしている、75%が、自分の考えを話したり、書いたりして伝えようとしていると回答している。
- 保護者（1～6 年）の 74%が、子どもは、授業で学習することについて、自分の考えをもとうとしている、77%が自分の考えを話したり書いたりして伝えようとしている、と回答している。

・　家庭で、すすんで学習しているとする高学年（5,6 年）児童が 62%、保護者への同様の問いに対しては、肯定的回答が 55%であった。

授業で主体的な課題への取り組み、学び合いを促進しているが、実際に子どもがそうしているか、成果とするにはやや物足りない回答であった。
タブレットの活用に関しては、授業での活用は分かりやすい授業に役立っているものの、使い方のルールが守られているか、児童の荷物の負担など、教員、保護者からの課題が提起されている。

重点目標　2　よりよい人間関係

思いやり、感謝の心をもって自らすすんでよりよい人間関係を形成しようとする態度や能力を育てることを目指している。豊かな人間関係の基礎となる言語環境を整える。あいさつ、適切な言葉遣い、人権に配慮した言動（例　代沢しぐさ）などを、教職員が範を示し互いに改善を図る。子どもの個性や発達特性を理解し、教職員間で情報共有して個人に応じた指導を充実させる。
不登校の防止、「代沢小学校いじめ防止基本方針」に沿ったいじめの防止、早期発見と対応、特別支援活動と連携をはかり「チーム代沢」ですべての児童に自尊感情・自己肯定感の育成を図る。また、キャリア教育、異学年交流（せせらぎ班交流）、舟形交流、幼保小の円滑な接続にむけた交流など、幅広い人間関係の機会を与えようとしている。

＜成果＞
・　自分の住んでいる町を大切にしようとしているかという問いに、87%の高学年児童が肯定的に答えている。同様の設問は保護者や地域に無いが、高学年児童は、地域に愛着を持ち、大事に思っていることがうかがえる。

・　高学年児童の 88%が「代沢しぐさ」など相手を大切にする行動を心がけていると回答している。同様の問に対する保護者の肯定的回答が 75%、地域の肯定的回答が 87%となっている。保護者に関しては、前年度の 66%から大きく改善されている。「代沢しぐさ」が名称とともに、定着してきているように思われる。教職員の自己評価でのコメントでも生活指導に取り組んでいる様子がみられる。

・　高学年児童の 92%が児童会活動（委員会、クラブ活動）では、自分たちから活動することができたとしている。保護者全体の評価は 67%であるが、児童会活動は高学年が中心のものであるので、全学年保護者の回答では、分からない、とする回答が多く、低い値となっている。地域の回答は、65%が肯定的なものであり、前年度の 56%から上が

った。残りの 35%は、分からない、で否定的な回答は無かった。

・ せせらぎ班活動を通して人との関わり合いをひろげることができたという問いに 88%の高学年児童が肯定的に回答している。異学年、地域、新しい仲間たちとの関わり合い、思いやり、感謝の気持ちを持って、良い人間関係形成をはかるという代沢小の特色ある教育活動をこれからも工夫して続けていって欲しい。

・ アンケート項目として存在しないが、教職員、保護者の自由記述から、不登校やいじめの防止、子どもそれぞれに必要な対応に努力されている様子がみられる。

＜課題＞

・ すすんで地域の方にあいさつしているという高学年児童が 73%であった。
自分の住んでいる町を大切にしようとしていて、地域からも相手を大切にする行動を評価されている児童にとっては、やや残念な数値である。

・ 異学年の交流やせせらぎ班などの縦割りの交流が成長を促しているという保護者のコメントがある一方、保護者へのせせらぎ班活動をとおして人との関わり合いをひろげることができているかという問いに対して肯定的に回答したのは、67%であった。14%の分からない、という回答があり、活動、またはその成果について知らない保護者も多数いるようである。地域に向けた同様の問に対しては、68%の肯定的な回答があった。のこり 32%がわからないという回答で、活動の成果があまり認識されていない。

重点目標　3　健やかな心身

健やかな心身を目指し、自らの体力の向上や健康安全の推進に取り組む態度や能力を育てるとともに、はつらつと学校生活を楽しむ心情を育てる。
子どもの心の安定と体力の維持・向上に努める。ランランタイムの企画（ラジオ体操、持久走、長縄など）で意欲を喚起、まず安全に配慮した上で運動量を確保した体育授業の充実、外遊びの奨励などで体力づくりに取り組む。
また心の健康につながる道徳教育の充実を図り、自尊感情、規範意識、道徳的価値への自覚を高め、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育てることを目指している。

＜成果＞

・ けがなく安全に過ごすために、自分でよく考えながら生活することができているか、と

いう問いに対して 85%の高学年児童が肯定的に回答している。同様の問に対する肯定的な回答は、保護者 81%、地域 87%であった。安全に生活する意識は高く保たれている。

・ ランランタイム(ラジオ体操、持久走、長縄跳び)や、体育の学習ですすんで運動に取り組んでいるという高学年児童が 79%であった。同様の問いには、保護者の 77%が、地域の 94%が肯定的に回答している。
・ 休み時間に外遊びや体育館遊びですすんで体を動かしているという高学年児童が 82%であった。

けがなく安全を心がけながら、すすんで運動に取り組んでいる様子がみられる。

重点目標　全般について

・ 学校が保護者へ重点目標をつたえているかについて、保護者の 85%が肯定的に回答しているが、今年度の学校重点目標を理解しているかについては、肯定的な回答が 61%にとどまっている。重点項目の詳細が多岐にわたるため、理解しているとまで回答できないということもあるのではないかと推測する。
・ 地域の 87%は、学校の重点目標が明確であるとしている。

学校だより『代澤』により、重点目標への取り組みは、その月の活動と関連付けて、よりよく保護者や地域に発信されている。知、体、心のそれぞれを推進する活動部を設け重点目標への取り組みを行っていることは、評価できる。

Ⅱ．地域とともに子どもを育てる教育

＜現状＞

地域関係者へのアンケート結果を、「①肯定的回答(とても思う・思う)」・「②否定的回答(あまり思わない・思わない・分からない)」の項目別に記す。

1. 学習指導について

(1) 学校は子どもたちが授業で、学習することについて、自分の考えをもてるように学習を進めている。→①76%　②24%

(2) 学校は子どもたちに授業で自分の考えを話したり、書いたりして伝えることができるように学習を進めている。→①77%　②23%

２．生活指導について

(1) 通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。→①86%　②14%

(2) 学校は子どもたちが、地域の方にも相手を大切にするふるまいができるようにしている→①76%　②24%

(3) 学校は子どもたちがけがなく安全に過ごすために、主体的に判断し生活することができるようにしている。→①87%　②13%

3．学校行事について

(1) 学校行事の内容は充実している。→①90%　②10%

(2) 事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。→①87%　②13%

4．特別活動について

(1) 学校は子どもたちが児童館活動(委員会・クラブ活動等)を通して、」自分たちで活動する力をつけるようにしている。→①64%　②36%

(2) 学校は子どもたちがせせらぎ班活動等を通して人との関わり合いを広げることができるようにしている。→68%　②32%

5．学校全般について

(1) 学校は子どもたちが学校生活を楽しむことができるようにしている。
→①93%　②7%

(2) 代沢小学校の教育に満足している。→①78%　②22%

(3) 学校は子どもたちが朝の運動(ラジオ体操・持久走・長縄跳び)や体育授業を通して、運動に親しむことができるようにしている。→①93%　②7%

6．学校からの情報提供について

(1) 学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。
→①97%　② 3%

(2)「学び舎」の活動について、情報が提示されている。→①77%　②23%

(3) 学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。
→①80%　②20%

(4) 学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。→①87%　②13%

7．学校運営について

(1) 学校の重点目標が明確である。→①87%　②13%

(2) 地域の意見に対して、学校はていねいに説明している。→①76%　②24%

8. 地域との連携について

(1) 地域の人や施設を教育活動に活用している。→①87%　②13%

（2）学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。→①63%　②37%
（3）学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。→①64%　②36%

９．学校の安全対策について
（1）学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。→①93%　②7%
（2）学校は、安全性を高めようと地域と協力している。→①90%　②10%

＜成果＞
今年度はほぼ全項目において、「①肯定的回答(とても思う・思う)」が 80%台～90%台の高評価を得て「②否定的回答(あまり思わない・思わない・分からない)」を上回っていた。ただし以下の 3 項目については、肯定的回答が 60%台となっていた。

① 「４．特別教育」の「(2) 学校は子どもたちがせせらぎ班活動等を通して人との関わりあいを広げることができるようにしている」
② 「8. 地域との連携について」の、「(2) 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」
③ 同「(3) 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」

高評価を得ている項目については、学校教職員の方々の教育・学校運営・地域対応などの地道な取り組みと、保護者・地域住民との連携の成果であり高く評価できる。今後も、このあり方を持続させたい。
また上述の 3 項目が 60%台となっていた理由として、以下の理由が考えられる。①については評価項目に記された学校行事等の地域住民の接触率が少なかったこと。②③については学校協議会には地域住民の特定の方のみがかかわっていることである。これらにより設問自体が、地域住民にはなじみが薄い内容であったことが考えられる。今後は、学校だより『代澤』紙面やホームページをさらに活用し、より多くの地域住民に学校を知ってもらうことが望まれる。

＜課題＞
課題として以下 2 点を記したい。
（1）通学の様子と地域とのつながり
子供たちは地域住民への挨拶もしっかりし、交通ルールもよく守って登下校している。また地域住有志により、代沢地区では梅丘通り各信号を中心に、代田地区も北沢川緑道で登校時などの見守り活動を継続している。これにより子供たちと地域住民との間のコミュニケーション拡大、交通安全確保、不審者への抑止など多くのメリットが生まれていると考えられる。今後もこうしたつながりを継続したい。
（2）大規模再開発への対応
学区内では多くの再開発事業が展開中である。主なものだけでも「代沢 3-8(北沢八幡宮東

側前・旧興銀社宅跡地)」「代沢 3-11(阿川公園北側)」「代沢 4-18・旧三菱重工社宅跡地」」「代沢 5-2(代沢小学校西・旧東邦薬品跡地)」がある。また学区内では下北沢地区を中心に中規模なビル工事が、その他の宅地でも一般住宅の建て替え工事が多く行われている。

これらに伴う通学路での大型トラックや重機の通行など、交通安全にかかわる課題も出始めている。特に不規則になる下校時の安全対策への配慮も必要になる。このあたりについての子どもたちへの注意喚起の必要性も考えられる。

Ⅲ　「世田谷９年教育」で実現する質の高い教育の推進

１　学習指導

＜成果＞

①５、６年生児童の学習指導に対する評価は全般に高い傾向にあり、各質問項目に対する肯定的回答(「とても思う」と「思う」の合計割合を「肯定的回答」とする。以下同様)は、以下のようになっている。

(1)「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」91%
(2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」80%
(3)「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」93%
(4)「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」89%

全体として、昨年度とほとんど変わりない高い割合であり、高いレベルを維持していると言える。

②保護者全体(1-6 年合計)の学習指導に関する評価について、各質問項目に対する肯定的回答は、以下のようになっている。
(1)「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」81%
(2)「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」77%
(3)「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」86%
(4)「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」78%

70%台の項目もあるがいずれも前年よりは高く、保護者にも代沢小学校の学習に対する自発的、能動的な取り組みを促す授業が行われていることが伝わっていると評価すること

ができる。特に昨年（2）は 68%で、デジタルの流れの中でもアナログの良さを生かす工夫をしてほしいと書いたが、本年は大幅に評価を上げている。

２　生活指導

＜成果＞
①５、６年生児童の生活指導に対する評価は全般に高い傾向にあり、各質問項目に対する肯定的回答は、以下のようになっている。

(1)「私は、学校のきまりを守って、行動している」86%
(2)「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」83%
(3)「先生に注意されたことは、理解できる」86%

いずれも肯定的回答が 80%を上回っている。児童たちは、教員の生活指導のあり方に対して、ほぼ納得していると見てよいであろう。

②昨年は課題として、保護者(1-6 年合計)の生活指導に対する肯定的回答の割合は、５、６年生児童に比して低い傾向にあったと書いたが、本年は評価が向上していた。
(1)「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」79%（前年 74%）
(2)「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」82%（前年 76%）

①　地域の方々による交通ルールや地域との接し方、学校の安全に対する姿勢などの評価はいずれも 87%となっており、高評価であった。

３　学校行事

＜成果＞
①５、６年生児童の学校行事に対する評価は全般に高い傾向にあり、各質問項目に対する肯定的回答は、以下のようになっている。

(1)「学校行事は楽しい」94%
(2)「学校行事は達成感がある」84%

⑶「先生は、児童の意欲を大切にしている」82%

②保護者(1-6 年合計)の学校行事に対する評価も、昨年度と同様に非常に高いものであった。

⑴「学校行事は、子どもにとって楽しい」95%

⑵「学校行事は、子どもにとって達成感がある」92%

⑶「本校は、子どもの意欲を大切にしている」87%

③地域の方々の学校行事に対する肯定的回答の割合は、高かった。配慮について向上したのは良いことだと思う。

（1）「学校行事の内容は充実している」90%

（2）「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある」87%（前年 81%）

＜課題＞

学校行事に関して、アンケート数値を見る限り、現状、明確な課題は見当たらない。教職員自己評価でも舟形交流が無くなり、簡素化に向けた努力も行われて良いバランスで実行出来ているとの意見があった。

４　キャリア教育

＜成果＞

①　下記の項目の評価が上がり、意識が向上したと考えられる。

⑴「目標をもち、その実現に向けて努力している」87%（前年 78%）

＜課題＞

②　下記の項目は評価が低下した。キャリア教育という概念を定着させるのならば授業の時に分かりやすくキャリア教育を実施しているというアピールも必要かもしれない。

⑵「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」65%（前年 71%）

②保護者(1-6 年合計)のキャリア教育に対する評価も、昨年度と同様に非常に低い。児童の意識向上は図れているので、こちらもキャリア教育という言葉を使ってアピールするのも良いと考えられる。

⑴「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」63%

⑵「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」52%

Ⅳ　信頼と誇りのもてる学校づくり　　＊（　　）は前年度の数値

１　学校運営について

「学校運営について」の保護者・地域アンケートのうち、肯定的評価（「とてもそう思う」「思う」）の結果は、以下の通りである。

① 保護者「本校は保護者に学校の重点目標を伝えている」　85％（79％）

② 保護者「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」　90％（78％）

③ 地域の方々「学校の重点目標が明確である」　87％（94％）

＜成果＞

保護者の評価が大幅に向上した。代澤のレイアウトを変更して字も大きくなって各学年の連絡事項が目に飛び込んで来やすくなった。こういうことも高評価につながった可能性はある。

２　教職員について

保護者の教員に対する肯定的評価の結果は以下の通りである。

① 「本校は、丁寧に指導している」　88％（85％）

② 「本校は、子どものことを相談しやすい」　80％（77％）

児童の教員に対する肯定的評価の結果は以下の通りである。

③ 「先生たちは、ていねいに指導している」　84％（91％）

④ 「先生たちに相談できる」　62％（65％）

教職員の指導や相談のしやすさについては、児童の評価よりも保護者の評価の方が高い。しかし、保護者の評価は昨年度よりも高くなったが、児童の評価は低下している。

＜成果＞

保護者では「丁寧に指導している」が昨年度より 3 ポイント高くなり、黒板やプリントの工夫の高評価がこちらにも反映している可能性がある。

＜課題＞

児童や保護者の「相談しやすさ」については、保護者の評価は 3 ポイント向上したが児童の評価が 3 ポイント低下している。昨年も 9 ポイント低下している。評価対象は高学年の児童であるので、何でも先生に相談という時期ではなくなってくることは理解できるが、「丁寧に指導している」も 7%の低下ということを併せて考えると、少し教職員を遠い存在に感じている児童が増えているのかもしれない。昨年度の報告書でも述べた高学年では教師側からよく児童を観察、理解することが重要であるということを踏まえて、歩み寄りが必要な児童へのメッセージの発信のようなことを考えるなど工夫をしてみても良いのではな

いか？学習指導、生徒指導などは高評価のなかでの 60%台ということは検討に値するのではないかと考える。

3　学校からの情報提供について

保護者アンケートの肯定的評価の結果は以下の通りである。

① 「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」90%（86%）

② 「『学び舎』の区立中学校について情報が提供されている」46%（31%）

③ 「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」　93%（91%）

④ 「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」87%（85%）

地域アンケートの「広報活動・情報提供について」の肯定的評価の結果は以下の通りである。

⑤ 「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」97%（94%）

⑥ 「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」　87%（78%）

⑦ 「『学び舎』の活動について、情報が提供されている」　78%（72%）

＜成果＞

昨年度との比較で、元々高かった評価が保護者、地域共に評価が少し向上した。

＜課題＞

評価が向上したが、保護者の『学び舎』の区立中学校について情報がうまく伝えられていないという評価自体は本年も引き続いての課題と言える。この課題を本当に解決するのであれば、まずは『学び舎』という言葉自体が保護者にとって身近になるような広報活動が必要であると考える。それ以外の伝えようとしていることが伝わっており、学び舎の連携が全く実施されていないということではないので、取り組み方によっては可能ではないか。

Ⅴ 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

1.学校の安全性について

＜成果＞

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の割合は以下の通りである。

保護者

①「本校は、安全な学校づくりを進めている」85%（前年度 83%）
②「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」91%（前年度 90%）
③「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」85%（前年度 82%）

地域の方々
① 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」93%（変化なし）
② 「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」90%（前年度 88%）

保護者、地域の評価ともに、各年度とほとんど変わりない高い評価を維持している。
一方、自由記述では、代沢しぐさに挙げられている『挨拶』『学校生活』『食事』の中の挨拶、学校生活においての指導を求められている。

＜課題＞
１「挨拶」について
・「登下校見守り時、もちろん元気に挨拶を返してくれる児童もいますが、あまり挨拶が出来ない児童も多くいる」
改めてしっかり挨拶をすることの大切さについての指導を求める。
また、地域のみなさまが忍耐強く挨拶を続けていただけて、児童は安心して登下校しているため引き続きお願いしたい。

２「学校生活」の安全性について
・「教師の目の届かないところで廊下を走っている児童を多く見かける」
階段には、「食事」に対しての掲示がされている様に、「学校生活」の安全に関わる掲示を求める。死角になる場所に廊下を走らない、右側通行、衝突注意という掲示をし、また安全な学校生活の指導を求める。
・「下校時は、校門から誰でも入れる状態なのでリスクを感じる」
今後、学校の安全面の強化の一つとして下校時の校門の開閉の管理を求める。

３　学びを充実する教育環境の整備について
・「学校でのハラスメント防止についてだけではなく、教職員に対してのハラスメントを学校が「NO」を言っていいのではないか」
児童、保護者へハラスメント対策に対して、教職員は人権意識の向上のために、人権に関する研修を受けている。
また、教職員へのハラスメントは、「教職員働き方改革」に関する指針（2025 年刷新）で、学校の教育機関として保護者と協力関係を築くべきですが、教育の質を維持し、教

職員の健康を守るため、不当な要求に屈しない「毅然とした」対応が法行政の両面で認められている。

いずれの課題も、学校にだけ指導を求めるのではなく、保護者、地域の方々の協力が求められる。

Ⅵ　学校生活全般

＜成果＞

① 児童（5・6 年生）

「学校生活は楽しい」の項目は両学年とも 80%超の肯定的な回答を得ている。これは、「学校行事は楽しい」（5 年生：95%、6 年生：92%）や、「学校行事は達成感がある」（5 年生：85%、6 年生：82%）、今年度から新たに評価項目となった「学校生活で、めあてに向かって達成しようと努力している。」（5 年生：89%、6 年生：82%）がけん引していると思われる。“楽しい”は、すべての学びの原動力であるが、単にその場を楽しむだけでなく、多少の困難と対峙することがあっても、目標に向かって努力をすることで得られる達成感を“楽しい”と感じ、表現できることは、今後の人生で大きな財産となっていくであろう。

② 保護者

・「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」の項目において、全学年 85%以上もの肯定的な回答であった。特に 2 年生の保護者は 90%以上もの肯定的な回答をしている。

・「本校の教育活動に満足している」の項目においては、保護者全体の結果を見ると、肯定的な回答が 80%を超えた。子どもたちの成果発表の場でもある学校行事に対して、親子共に満足感があり、このような結果に繋がっていると思われる。日々の授業準備と並行して、こういった行事への入念な準備と滞りのない進行、子どもたちの導きを粛々と進めてくださっている先生方には、感謝の念が拭えない。

・「「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の項目において、昨年度と比較し、肯定的な回答が 5 年生保護者：39%→57%、6 年生保護者：44%→70%と大幅に改善している。

③ 当アンケート自由記述より一部抜粋

・自分のクラスが好きになるような、学校に来るのが楽しみになるような先生の声かけがされていると思います。

・生徒のいろんな活動に先生方も協力し、みにきてくださったり、学校を貸し出してくださったりしているなと感じます

・一年生の時に六年生がお世話をしてくれたり遊んでくれたり、せせらぎ班など、縦割り交流により自身の成長が促されていると感じありがたいなと思っています。
・子供が学校に行きたくないと言い出した際に親身にご対応いただきました。
・登校する子供達のおしゃべりや元気な声を聞くと嬉しいですね。代沢小学校いい学校だなと思います。毎月学校だよりを届けてくださってありがとう。

＜課題＞

① 児童（5・6 年生）

・昨年度同様、「学校行事が楽しい」の項目においては 80%を超の肯定的な回答があるものの、「学校が好き」の項目においては、両学年共に 80%を超えることがなく、特に 6 年生では、昨年度の 78%から 68%へ、約 10 ポイントも下落した。代沢小学校の一員で良かったと子どもたちが感じられるように、地域のリソースをフル活用し、代沢小学校独自の魅力を作り出していく必要があるのではないだろうか。
・昨年度から新たに評価項目となった「学ぶことが楽しい」の項目において、5 年生は 75%から 82%と 5 ポイント以上上昇しているが、6 年生は 82%から 67%と、15 ポイントもの大幅な下落となっている。授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会があり、学習することについて、自分自身でよく考え解決しようとしているという肯定的な回答が多かったものの、授業で、自分の考えを話したり、書いたりして伝えようとしたり、進んで家庭学習をしているという回答は約 6 割に留まっている。中学受験が現実味を帯びてくる時期で、探求心を持って自ら学ぶという環境から、限られた時間の中で決められた範囲をいかに効率的に学習するかというフェーズに移っている現れではないか。

② 保護者

・「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」の項目において、約 45%もの保護者が否定的な回答をしている。昨年度よりも、6.9 ポイント否定的な回答が増えている。タブレット端末の悪影響を訴える家庭も少なくないが、例えば、全国的に宿題の量を減らす（もしくは、任意制・選択制にする）傾向があるなどの、別の理由も出てきているのではないだろうか。
・「学び舎」による連携や交流活動が行われているという項目に肯定的な回答が増加してきている一方で、「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報提供については、50%以上の否定的な回答となっている。回覧板文化が残っている地域に在住していたり、兄弟姉妹が区立（幼稚園）中学校に通っているという状況でなければ、なかなか情報が入ってこないというのが現状のようだ。

③ 当アンケート自由記述より一部抜粋

・昨年度に比べてホームページでの「学校生活」の更新頻度が少なく残念に思います。行

事だけでなく普段の学校での様子も親としては知りたいものです。

・学校の安全面はもっと強化した方がよいと感じています。登校時は開門の時間が制限されており、大人が立っているので問題ないと思います。下校時は、誰でも入れる状態なので、少しリスクを感じます。

・重たくて子供の体に負担があるため iPad の持ち帰りの日数を減らして欲しい。

●学校関係者評価委員会としての総合所見

1．回収率について

回答率は保護者が微増、児童と地域は微減、例年通り評価には十分な回答は得られている。

2．重点目標について

主体的な学びでは、児童、保護者共に授業の中で、自分で考え、友達と課題解決する時間が多くとられているとの評価が高い。一方、家庭で進んで学習しているという問いの肯定的回答は児童 62%、保護者 55%で主体的な学びという点では物足りないと思う。

よりよい人間関係では、保護者の代沢しぐさについての評価が 66%から 75%に改善され、定着に向けた活動が実を結びつつある。せせらぎ班活動を通して人との関わりを広げることが出来たとする児童に対して、保護者の回答がやや低く、保護者へのアピールが必要と思われる。

健やかな心身は、児童、保護者、地域共に高評価であった。

保護者の重点目標の理解は昨年に続き 61%と低評価であり、伝達については高評価のため、理解についての取り組みは継続してほしい。

3．地域とともに子どもを育てる教育について

ほぼ全項目で高評価であったが、地域連携の学校協議会、運営委員会が役割を果たしているかの評価が 60%台で、関与していない地域住民にはなじみが薄い存在であるようだ。

学区内で大規模開発が多く展開中であり、特に下校時の注意喚起を続けてほしい。

4．学習指導について

「黒板の書き方やプリントの工夫」が 68%から 77%に評価を上げており、デジタル面とのハイブリッド指導がうまくいっていると考えられる。

5．生活指導について

昨年は児童に比べて保護者の評価が低い傾向にあると書いたが、本年は評価が向上しており、保護者へのアピールがうまくいきつつあることが感じられる。

6．学校行事について

全般に高い評価を得ており学校行事に関してはかなり高い成果をあげていると言える。また、教職員の自己評価から、行事の負荷軽減もなされており、それが行事の評価ダウンになっていないのは評価出来る。

7．キャリア教育について

児童の「目標をもち、その実現に向けて努力している」の評価が上がり意識向上が図れたと考えられる。一方授業で取り上げているという評価は児童、保護者共に高くない。「これはキャリア教育の授業ですよ」とアピールするのも良いのではないかと考えられる。

８．学校運営について

保護者の評価が向上した。代澤のレイアウト変更で各学年への連絡事項が伝わりやすくなったことも一因と考えられる。

９．教職員について

相談のしやすさの児童評価が 3 年連続で低下している。丁寧に指導しているも 7 ポイント低下という評価と併せて、学習指導、生活指導面の評価が問題の無い中での低評価なので、教職員側からこのように感じている児童へのアプローチの検討を提言としたい。

１０．学校からの情報提供について

本項目については保護者、地域共に全般的に高い評価が得られた。一方学び舎の啓発についての評価は低評価である。取り組んでいないということではないので、本年も伝え方の工夫を提言としたい。

１１．学校の安全性について

保護者、地域共に高評価で特に問題は無いと考える。自由記述から、登下校時の地域への挨拶、廊下を走らないという点での課題を指摘する声もあった。

教職員の自由記述からカスタマーハラスメントの事例がうかがえる意見があり、児童、保護者へ何らかの情報発信をする必要があるのかもしれない。

１２．学校生活全般

本年も学校生活は楽しいについては高評価だが、学校が好きは 80%を下回り、特に 6 年は 78%から 68%に評価が低下した。学ぶことが楽しいについても 5 年生が評価を上げているものの、6 年生は 82%から 67%に評価を下げており、中学受験を前にした 6 年生の気持ちの面を課題とした。昨年に引き続き保護者の子どもの自主的な家庭学習に 45%が否定的回答（+7%）と課題が見られた。

１３．最後に

行事の教職員の負担軽減など既に取り組みをしているということですが、来年度更に改革を進めていく上で、是非現在の学校運営の高評価の継続も図りつつ推進していただくようお願いします。